

〔江別市〕施策達成度報告書

政策 06 市民協働によるまちづくり

施策 03 国内・国際交流の推進

主管課 秘書課

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (22年度)	施策の課題 (22年度)
平成23年度からの小学校の英語必修化を前に、江別市小学校英語指導連絡協議会などを通じ、英語教育の取り組みなどについて相互の情報交換や検討が行われている。	1) 地域の国際化 国際感覚を持った市民を育成し、外国の生活や文化を理解することで、日本人と外国人の双方が安心して快適な暮らしができる地域社会を築く。 2) 人材育成 外国人とコミュニケーションを図る力やグローバルな感覚を身に付け、日本の発展や国際社会に貢献できるような人材の育成を図る。 3) 異文化理解の推進 国内・国外の異なる歴史や文化などを知ったり、そこで暮らす人たちと接する機会を設けることで、視野を広げるとともに、地域の現状や課題について見識を深める。

施策の目的

友好都市などとの交流により、国内の郷土や歴史の違いの相互理解を進めるとともに、姉妹都市や市内在住の外国人などとの交流により、外国との文化、言葉の違いを理解し、誰もが快適に暮らせる地域を目指します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内居住外国人

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国の文化や習慣を理解するとともに、コミュニケーションを図ることができるようにして、外国人とともに快適な生活を送ることができる。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国のことを理解し、お互いの歴史や風土を尊重して交流できる市民割合	%	16.9	18.9	-		↗
土佐市やグresham市が友好姉妹都市であると知っている市民割合	%	-	83.6	-		↗

施策の達成状況 (22年度)

成果指標は隔年実施の市民アンケートの結果をもとにしているため、H22年度については数値の把握はできていないが、全小学校での英語教育や小中学生の友好都市相互派遣、中高校生の姉妹都市相互派遣などを通じ、事業に関わった学校や保護者を中心に姉妹都市・友好都市についての認識が図られているほか、外国や他の地域の生活・文化に対する関心と理解が進んでいるものと考えられる。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	25,890	25,638	25,680
事業費(千円)	10,040	10,243	10,121
人件費(千円)	15,850	15,395	15,559

01 人材・団体の育成

基本事業の目的

国際感覚を持ち、外国人と良好なコミュニケーションが図れる人材や団体を育成します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内通勤通学者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国人とコミュニケーションを図る力を身につける。
国際交流や国際理解を推進する担い手が増える。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国人とコミュニケーションが出来る人の割合	%	10.2	12.1	-		↗
国際交流団体の登録者数	人	317	334	294		370

基本事業の達成状況 (22年度)

外国人とコミュニケーションを図ることができる人の割合は、市民アンケートの結果を指標としているためH22年度数値の把握はできていないが、小中学校での英語教育をはじめ、国際センターでの語学教室や国際交流イベントなどを通じ、増加傾向にあると考える。一方、国際交流団体の登録者数については、景気の低迷や会員の高齢化、一時期の韓国ブームが落ち着きを見せてきたことなどから減少となった。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	3,217	3,195	3,200
事業費(千円)	1,972	1,986	1,978
人件費(千円)	1,245	1,209	1,222

02 在住外国人への情報提供の充実

基本事業の目的

言葉や生活習慣の違いによる支障やトラブル、不安を解消し、誰もが安心して暮らせる街にします。

対象 (誰を対象とした指標か)

外国人

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

外国人が安心して住めるようになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
外国語による情報媒体提供件数	件	17	7	16		20
外国人相談によって問題が解決した割合	%	100	100	100		100

基本事業の達成状況 (22年度)

パンフレットの配布や市のホームページなどを通じ、英語と中国語による生活情報や行政情報の提供を行ってきたほか、外国人からの相談に応ずるなど、地域住民と外国人とがトラブルなく快適に暮らせるよう努めてきた。特に、H22年度はゴミ収集方法の変更や外国人登録制度の改正があったことから、混乱が生じないよう情報発信に留意してきた。今後も外国人が安心して暮らせる環境を提供していく。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	8,578	8,455	8,537
事業費(千円)	4,843	4,828	4,871
人件費(千円)	3,735	3,627	3,666

03 異文化交流の推進

基本事業の目的

様々な国や人、地域と触れ合い、相互の文化や歴史を理解する人材を育成します。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、市内通勤通学者

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

交流の機会等を通して、多くの市民が多様な文化を理解するようになる。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
友好都市との交流者数	人	1,752	1,397	1,871		1,800
世界市民の集いなど交流イベントの参加者数	人	813	864	713		880
社会人向け外国語講座の参加者数	人	225	250	239		270

基本事業の達成状況 (22年度)

小中学生による友好都市との相互交流、中高校生の姉妹都市との相互派遣、国際センターでの語学教室やイベントなどを通じ、市民が異文化の歴史や文化、言語などに触れる機会を持てるよう努めている。
H22年度は友好都市交流に係わった人数は増加しているが、交流イベントの参加者については、他の行事と開催日程が重複したことなどもあり例年を下回った。また、外国語講座の受講者については韓国ブームが落ち着いてきたことなどもあり、若干の減少となった。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	14,095	13,988	13,943
事業費(千円)	3,225	3,429	3,272
人件費(千円)	10,870	10,559	10,671

主要事業一覧(施策別平成22年度予算)

◎は実施計画事業を、○は主な臨時費を示す。人件費B欄は、各事業へ703人(H22.1.1一般職員数)分を振り分けている。
1人当たり平均単価8,328千円は「一般職総額5,871,246千円/705人(H22.4.1一般職員数)」で算出している。

(単位:千円)

政 策 施 策	主 な 事 業	事業費 A	A の 財 源 内 訳					主 な 内 容	人件費 B	総額 A+B
			国	道	市債	その他	一般財源			
06	市民協働によるまちづくり									
03	国内・国際交流の推進									
	◎ 国際交流情報提供事業	4,871					4,871	外国人スタッフの雇用による国際交流・国際理解の支援	1,249	6,120
	◎ 江別国際センター施設維持補助金	1,986					1,986	江別国際センターの管理運営を行う江別市国際交流推進協議会への補助	1,249	3,235
	◎ 中学生国際交流事業	1,641				300	1,341	姉妹都市米国グレシャム市との相互交流(中学生6名派遣、8名受入予定)	2,082	3,723
	○ 小中学生国内交流研修事業	1,157				200	957	友好都市土佐市との相互交流(小中学生10名派遣、12名受入予定)	2,498	3,655

※平成22年度予算金額です。